SDGSX甲南大学

Sustainable Development Goals

Konan University

甲南大学は大学生と高校生が力を合わせ、自治体とも連携して地域の課題解決に取り組む「関西湾岸SDGsチャレンジ」 (主催:甲南大学、朝日新聞社メディアビジネス局、後援:神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市)。

4回目となる今年も、時代と社会が大きく様変わりするのに合わせ、新しい学びや研究の手法を駆使した

学生たちの挑戦に期待が高まります。さらに進化するプロジェクトを紹介します。

SUSTAINABLE GALS DEVELOPMENT











朝日新聞





















Okayama







「関西湾岸SDGsチャレンジ」 激変の時代に若い視点が未来をひらく

現地調査とオンライン取材 ハイブリッドで効果的に学ぶ

「関西湾岸SDGsチャレンジ」は、甲南大学と地域 連携協定などを結んでいる関西湾岸ネットワーク =別項参照=の5自治体の地域課題を、SDGsの 視点から考えるプロジェクトだ。大学生と地元高 校生それぞれ4人ずつが1チームとなり、大学教員、 自治体職員、朝日新聞記者のサポートを得て、地域 の課題を探究。学内外での協働作業を経て、持続 可能な解決策を発表し、主体的に行動・発信できる 人材の育成につなげている。

今年は学生たちの相談者(メンター)となる教員 の受け持ち地域を入れ替え、新しい教員も加わる。 経済学部・石川路子教授は「教員にはそれぞれに 専門性があり、アプローチの仕方が異なります。 新たな気付きを提示でき、大学生、高校生の新しい 発見につながるはずです」と期待する。



石川 路子 教授

高校、大学、自治体、朝 日新聞社で、オンラインで の事前協議を複数回開 き、高校生、大学生が取り 上げるべきテーマを議論。 昨年は学生の現地訪問が 難しかったが、今年は十分 に感染対策を取りながら フィールドワークも再び 重視し、オンラインの話し

合いと取材を効果的に組み合わせる。

「オンラインは距離に関係なくいつでも話せる 利点があります。一方、現地の事情や感覚はやはり 取材に行かないとわかりません。オンラインと直接 の対面というハイブリッド型の新しい学びの可能 性を追求したい」と意欲を見せる。

高大連携で大きな成果 課題発見力を身に付ける

プロジェクトには大学内の様々な学部から大学 生が参加。専門知識のある大学生と地元に詳しい

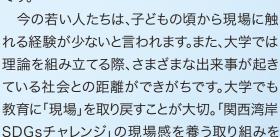
仮説を持って「現場に立つ」 社会で生かせる貴重な機会に

昨年はコロナ禍のもと、学生と生徒たちはWeb 会議システムを使ってグループワークに取り組 み、距離を超えて議論しました。オンラインでの 意見交換は今後の社会では標準になることか ら、その経験ができたのは収穫です。

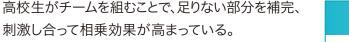
朝日新聞のメンター記者からも毎年、学生に 気付きをいただいています。以前、仮説を持つこ との重要性を記者が指摘。事前に十分にリサー チし、問題の仮説を立ててから現場に赴くことで 初めて物が見えると話され、納得しました。

今年は運営側で事前協議を密に行い、目的を より明確にすることで、生徒も学生も仮説を持っ て現場に立ちやすくなると期待しています。現地 に身を置き五感を働かせると、自分が考えていた

こととの違いや、知ら なかったことが明ら かになります。最終 的には感じたことを 言葉にし、学びの成 果を発表。「関西湾岸 SDGsチャレンジ」の 経験は社会に出ても 必ず生きてくるはず です。



れる経験が少ないと言われます。また、大学では SDGsチャレンジ」の現場感を養う取り組みを これからも推進していきたいと考えています。



石川教授は昨年岡山市を担当。企業も巻き込み たいという地元の意向を受け、サッカーJ2のチーム への提案を通じて、ESD(持続可能な開発のための 教育)に取り組んだ。「激変する社会で求められて いるのは課題発見力。「関西湾岸SDGsチャレンジ」 はこの力が身に付く貴重な機会になっています」と 力を込める。

拠点となる地域連携センターは今年開設10周 年。社会人やシニアの学び直しを対象にしたリカレ ント教育を推進する大学では、将来的にはSDGs チャレンジにこれらの受講生にも参加してもらい、 さらに多様な視点から地域連携の学びを深める

構想も探る。1年ごとに 着実に進化する関西湾 岸SDGsチャレンジは、 地域とともに常に未来を 見据える甲南大学の姿 を体現している。



昨年からオンラインも活用

2021年のチャレンジスケジュール

ITも活用し、可能な限り対面で調査・研究

「グループワーク」

7/18(日)。チームを組む甲南 大学の大学生と各地の高校 生が、地域の課題を考察し、 解決に向けての仮説を立て、 取材方法なども学ぶ。



佐藤 泰弘 副学長



「フィールドワーク」 8~9月(夏休み中)。チームごと

に各地域を訪問し取材する(新型 コロナ感染症の状況により、オン ライン取材やその併用も想定)。

「SDGsチャレンジアカデミー」

11/3(水・祝)。地域の課題 を紹介し、その解決策を学生 が発表する。自治体からは講 評をもらう。各チームの成果 は、大学のWebサイトや朝日 新聞などでも広く発信する。



【関西湾岸ネットワーク】 甲南大学では「海でつなが

る」をキーワードに、神戸 市、堺市、和歌山市、徳島 ク」を2016年に構築。様々 な地域連携活動に取り組 んできました。一昨年から SDGsチャレンジは岡山 市を加えて、瀬戸内へと 連携を広げています。

昨年の様子

Kobe

●和歌山

まちをもっと元気に 活動成果に高い評価



昨年度の「関西湾岸SDGsチャレンジ」は10~12月に 実施された。

神戸市のグループは「神戸市における地域循環共生圏 の取り組みを考える」をテーマに、六甲山に注目。持続 可能な形で地域で活用する方法として、放置竹林の活用 策を提案した。堺市のグループは地域の大人が子どもに 無料や安価で食事を提供する「子ども食堂」を調査。食堂 に「地域スクール・ラボ(スクラボ)」と愛称をつけて利用 を促進する手法を提示した。和歌山市のグループは利用 者が減り、存続危機にある和歌山電鉄貴志川線を取材。 地元住民の利用を増やすため、駅に健康拠点を置くこと を考え出した。

豊富な水資源に着目したのは徳島市のグループ。吉野 川の三角州「ひょうたん島」から発展した水都の魅力が 再発見できるマップ作りやクルーズ体験の可能性を探っ た。岡山市のグループは、引きこもりなどの困難を抱える 社会的弱者と地域のつながり方を探究。地元サッカー チームと連携したイベントを提案した。

昨年12月には甲南大学で成果報告会「SDGsチャレンジ アカデミー」を開催。コロナ禍で制約がある中、自治体関 係者らからは充実した報告を高く評価する声が聞かれた。



甲南大学の最新情報は「甲南Ch.」でご確認ください。

甲南Ch.(チャンネル)では、各学部での学びや研究内容、オープンキャンパ

スなどのイベント情報、入試情報といった各種情報を発信しています。随時

情報を更新していますので、最新情報の収集にご活用ください。

2021 OPEN CAMPUS

7/11(日) 14:00-17:00

8 / 1 (日) 14:00-17:00

9:30 - 12:30 9/26(日) 14:00-17:00

イベントの詳細・お申し込みは「甲南Ch.」で確認してください。

ポートアイランドキャンパス 西宮キャンパス













お問い合わせ先

甲南大学アドミッションセンター TEL:078-435-2319(直通) 文学部/経済学部/法学部 経営学部/マネジメント創造学部 理工学部/知能情報学部 フロンティアサイエンス学部

岡本キャンパス 阪急「岡本」駅より 徒歩約10分 JR「摂津本山」駅より 徒歩約12分

阪急「西宮北口」駅より 徒歩約3分 JR「西宮」駅より 徒歩約13分

神戸新交通ポートアイランド線 (ポートライナー) 「計算科学センター(神戸どうぶつ王国・ 「富岳」前)」駅より徒歩約4分

9:30 - 12:30

甲南大学をめざす受験生のための情報サイト

Check!

甲南を知って、甲南へ行こう。

甲南Ch. 検索 https://ch.konan-u.ac.jp/